

一関遊水地の工事紹介

現在、一関出張所管内では、北上川、磐井川、砂鉄川で工事を行っています。その工事のうち今回は、第一遊水地及び第二遊水地の小堤において実施している天端舗装工事を紹介します。

小堤には越流からの洗掘を防止するための”縦帯工”^{たておびこう}というコンクリート製の壁を設置することとなりこの工事の特徴の一つです。

縦帯工の施工には特殊な工法である「スリップフォーム工法」を採用しています。スリップフォーム工法とは、鉄製の型枠を用いて移動しながらコンクリートを打設する工法で、この工法により通常1日数メートルのところを1日300メートルも築造することが出来ます。

スリップフォーム工法による縦帯工の施工状況



様々な機械を使って工事を進めています



小堤の天端は狭く(と言っても6mありますが)延長が長いので大型のトラックが回転できずバックで何キロも走らなければなりません。それは安全上も好ましくないので”ターンテーブル”という機械を使ってトラックの方向転換をしています。(このターンテーブルは自分で移動することも出来ます)



”アスファルトフィニッシャー”という機械を使って舗装していきます。この機械はドイツ製で一日に600mも舗装をすることが出来ます。

アスファルト舗装の完成です。遠くに見えるのが高館橋です。